

ポブベックのやさしい投資信託

第44回 ファンドの選び方 その6

(9) ファンドの選び方

(9-D) 保有銘柄の分析

ファンドが毎年の決算を行う時には、そのファンドの保有銘柄を全てリストアップした運用報告書が送られてきます。また、最近ではディスクロージャー(情報公開)の意識が高まったせいか、どの運用会社も保有銘柄、特に上位10銘柄とその組入比率をインターネットや投信評価機関などを通じて、公開しています。

保有銘柄を見て何が分かるのでしょうか。

ファンドの保有上位5銘柄が以下のようになっていたとしましょう。

	銘柄	組入比率
1	NTT	4.0%
2	NTTデータ	3.5%
3	ソニー	3.0%
4	トヨタ	2.8%
5	松下電産	2.5%

さて、この表を見てみなさんは何を考えるのでしょうか。NTTが入っているから、このファンドは買い?それとも、トヨタが組入れられているから、このファンドを購入するのは止めますか?

しかし、あなたが、「NTTが組入れられているから、このファンドを購入しよう」と考えたとしても、明日、ファンドマネージャーはNTTを売却してしまうかもしれません。また、あなたが、このファンドを購入した次の日には、新日鉄を5%近く組入れているかもしれません。(具体的な銘柄名に他意はありません。念の為に申し添えておきます。)

運用報告書やディスクロージャー資料を調べる事で分かるファンドの保有銘柄は、あくまでも過去のもの、または今現在ファンドに組入れられているというだけなのです。今後もその銘柄をずっと保有していくという事ではありません。

更に、この例では、NTTを一番多く組入れています。だからといって、ファン

ドマネージャーが、NTTの今後の株価上昇率が一番高いと考えているわけではありません。株価が大きく上昇したために、組入比率も上昇して現在に至ったのかもしれないのです。

また、「NTTが組入れられているから、このファンドは買い」と考える事が出来るのなら、ファンドを購入せずに、NTTの株式を直接購入すれば良いでしょう。コストをかけて、投信を購入する必要はありません。

つまり、保有銘柄を調べたところで、そのファンドのパフォーマンスを予測する事など出来ないのです。

では、保有銘柄を調べる事は全く無意味な事なのでしょうか?そんな事はありません。組入比率を調べる事で、そのファンドのリスクを知る事が出来るのです。例えば、一番組入比率の高い銘柄でも、その組入比率が1%以下だったとしましょう。その場合、ファンドには少なくとも100銘柄以上が組入れているはず。一般に、50銘柄以上を組入れると、分散投資のメリットが出てくると言われています。100銘柄以上を組入れていけば、ほぼ、株式の平均点、つまりインデックスと同じような基準価額の値動きになる事が予想出来るのです。

逆に、上位銘柄の組入比率が大きい場合(5%~10%)には、積極的にリスクをとり、インデックスよりも大きなリターンを得ようとしている事が分かります。インデックスよりも大きなリターンを得ようとしているという事は、株式全体が上昇する中で、基準価額が上昇しないという事もあり得ます。つまりリスクが高いという事なのです。

ただ、最近では、TOPIXや日経平均も、二極化の影響で、下表に示すような銘柄はインデックスに占める比率が高くなっています。これらの銘柄が、ファンドの中で高い

日経225への影響力の大きい銘柄		TOPIXへの影響力の大きい銘柄	
会社名	指数全体に占める比率	会社名	指数全体に占める比率
松下通信	5.3%	NTTドコモ	5.7%
アドバンテスト	4.4%	トヨタ	4.0%
京セラ	4.3%	NTT	3.4%
TDK	3.4%	ソニー	2.1%
ソニー	2.8%	みずほH	1.9%

組入比率を占める場合には、リスクをとっているのではなく、インデックスと同じリターンを狙っているのだという事を理解しましょう。